

BUSINESS REPORT



株主の皆さまへ
第110期 第2四半期報告書
2019年12月1日から2020年5月31日まで

津田駒工業株式会社



代表取締役会長 菱沼捷二 (右)

代表取締役社長 高納伸宏 (左)

2018-2020 スローガン

トップを目指せ
強い津田駒 新たな挑戦

連結業績ハイライト

受注高	経常損失 (△)
13,838 百万円 (前年同期16,396百万円)	△1,567 百万円 (前年同期 経常利益554百万円)
売上高	親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)
11,548 百万円 (前年同期20,325百万円)	△1,850 百万円 (前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益451百万円)
営業損失 (△)	1株当たり四半期純損失 (△)
△1,530 百万円 (前年同期 営業利益640百万円)	△289.61 円 (前年同期 1株当たり四半期純利益70.61円)

*表紙はTRI (ツダコマ・ロボティック・インテグレーション) による社内加工設備です。

新型コロナウイルス感染によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔み申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。また、令和2年7月豪雨に被災された地域の皆さまにおかれましても、一日も早い復興を祈念申し上げます。

さて、令和2年度第2四半期の決算をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当第2四半期におきましては、米中間の追加関税引き下げの第1段階合意の効果に期待が高まりましたが、新型コロナウイルス感染が予想もつかないスピードで世界的に拡大し、都市封鎖や渡航禁止などにより世界中の経済活動が停止する状況に陥りました。このため、輸出比率が高い当社におきましては、商談の中断やお客さまの設備投資計画の延期など、その影響を強く受けました。

こうした状況に対し、当社といたしましては、中期的な市場の変化を視野に入れ、経営計画を新

たにする中で、技術開発を強力に進めるとともに、ウイズコロナ時代に適応した製造業としての働き方、販売の在り方を検討し、事業の立て直しを進めてまいります。

繊維機械事業では、中国国内における内需拡大を好機ととらえ、中国子会社の情報・機動力を生かして、需要の取り込みを図ってまいります。欧州では新たな販売拠点（イタリア・ミラノ市）を立ち上げ、EU域内の移動制限解除の拡大とともに活動を展開してまいります。また、各国市場に対して、当社が注力しております産業資材分野への販売を強化してまいります。開発面では、IoTを活用した新製品や、生産性向上のための新装置等の商品化を進めており、お客さまへのタイムリーなご紹介を企画してまいります。コンポジット機械事業では、本年2月に発表いたしました国産初の「小型ロボットタイプのCFRP曲面積層機」を、幅広い業界に向けてアピールしてまいります。

工作機械関連事業では、中国市場でスマートフォンやタブレット端末等のOEM業界の需要回復、自動車販売台数の増加など、市場の回復の兆しと見られる動きが伝えられております。すでに受注済みのOEM業界向けNC円テーブルの効率的な生産を確実に進め、利益確保を図ってまいります。

新たに取り組んでおりますTRI（ツダコマ・ロボティック・インテグレーション）は、今後の自動化需要を見込んでおりますが、昨年度より進めておりました社内設備への展開が進み、本年1月には大型設備2基が本格生産を開始しております。社内生産の効率化を進めるとともに、積極的にお客さまへのご紹介を図り、事業の拡大を図ってまいります。

株主の皆さまには、変わらぬご支援を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。



「景気回復期の準備を着実に進める」と語る高納社長

繊維機械事業～ジェットルーム (超高速革新織機)

当社はジェットルーム納入台数世界一の実績を有し、環境も慣習も異なる世界の多様な繊維市場に、細かなサービスと使いやすい高性能織機を提供してきました。特に、中国、インド、東南アジア諸国等、繊維産業によって経済発展を目指す新興諸国において、織布産業の近代化を促し、各国の国際競争力の向上、人材の育成に貢献してまいりました。

日常生活に欠かせない衣料やホームテキスタイル、命と生活を守るエアバッグやブルーシートなどの産業用織物など、さまざまな繊維製品が当社のジェットルームから生まれます。環境問題にもいち早く取り組み、織機稼働時の電力消費量・水消費量の削減、さらに排水処理技術の研究にも取り組んでいます。当社は、ジェットルームのリーディングカンパニーの誇りと責任を負って、持続可能な繊維産業の発展に貢献してまいります。



空気でヨコ糸を挿入するエアジェットルーム(タオル仕様)



水でヨコ糸を挿入するウォータージェットルーム(ドビー仕様)

繊維機械事業 ～サイジングマシン (糊付け機)

サイジングマシンは、超高速で稼働するジェットルームに必要な高品質のタテ糸を準備 (糊付け) する設備です。当社が生産するフィラメント糸用サイジングマシンは、世界シェア90%を誇っています。世界をリードする技術開発により、省資源・省エネルギーを実現しています。また、周辺設備を含めて自動化を進め、作業者の労働環境の改善に貢献しています。



 T-Tech Japan

世界トップシェアのサイジングマシン

工作機械関連事業～NC円テーブル



当社独自のボールドライブ駆動NC円テーブル

加工する素材の位置決め（角度割り出し）を高速かつ1/1000単位の高い精度で行います。CO₂削減に貢献するハイブリッド車にも搭載される高効率エンジンの加工をはじめ、世界をつなぐスマートフォンやタブレット端末の部品加工にも使用されています。自動車、航空宇宙、電子、医療、エネルギーをはじめ、持続可能な社会に欠かせない産業と技術革新基盤の構築に貢献します。

コンポジット機械事業 ～炭素繊維複合素材自動積層機

炭素繊維複合素材（CFRP）は軽量・高強度の優れた特徴を生かし、自動車、航空宇宙産業をはじめ、風力発電など新たな産業インフラ分野への展開など利用機会が拡大しています。当社は日本初の炭素繊維複合素材自動積層機など自動化設備を開発し、強靱なインフラ構築とイノベーションの推進に貢献しています。すでに航空宇宙産業向けに設備を納入しております。また、携帯可能な車いす用スロープを商品化し、ノーマライゼーションの実現に貢献しております。



国産初の小型ロボットタイプCFRP曲面積層機



ロボットインテグレーション事業～TRI (ツダコマ・ロボティック・インテグレーション)

当社のモノづくりノウハウとNC円テーブルや搬送装置、ジグ設計、電子制御技術など当社グループのコア技術を統合し、お客様のロボットシステム構築をサポートします。現場作業の自動化を進め、作業者を重労働から解放し、より個々のやりがいを満たす働き方の実現に貢献します。

事業別の状況

繊維機械事業

受注高	11,408	百万円 (前年同期比13.0%減少)
売上高	8,951	百万円 (前年同期比44.2%減少)
営業損失(△)	△862	百万円 (前年同期 営業利益807百万円)

工作機械関連事業

受注高	2,430	百万円 (前年同期比26.1%減少)
売上高	2,596	百万円 (前年同期比39.6%減少)
営業損失(△)	△43	百万円 (前年同期 営業利益505百万円)

連結財務データ

BUSINESS REPORT

四半期連結貸借対照表 (単位：百万円)

科目	前期 令和元年11月30日現在	当第2四半期 令和2年5月31日現在
資産の部		
流動資産	22,658	20,835
固定資産	12,793	12,958
有形固定資産	9,521	9,726
無形固定資産	577	580
投資その他の資産	2,694	2,652
資産合計	35,452	33,794
負債の部		
流動負債	14,723	15,357
固定負債	6,888	6,522
負債合計	21,612	21,879
純資産の部		
株主資本	12,900	11,829
その他の包括利益累計額	△297	△22
非支配株主持分	1,236	108
純資産合計	13,839	11,915
負債純資産合計	35,452	33,794

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書 (単位：百万円)

科目	前第2四半期 (累計) 平成30年12月1日から 令和元年5月31日まで	当第2四半期 (累計) 令和元年12月1日から 令和2年5月31日まで
売上高	20,325	11,548
営業利益又は営業損失(△)	640	△1,530
経常利益又は経常損失(△)	554	△1,567
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	549	△1,830
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	514	△1,873
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	451	△1,850

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

本社所在地 〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号
 設立 昭和14年12月30日（創業 明治42年3月）

資本金 123億1,654万円
 従業員 961名

役員の状況（令和2年5月31日現在）

代表取締役会長	菱 沼 捷 二	
代表取締役社長	高 納 伸 宏	法務、コンプライアンス室担当
常務取締役	松 任 宏 幸	管理部門統括、総務部長、輸出管理室長、津田駒機械設備（上海）有限公司 董事長、津田駒機械製造（常熟）有限公司 董事長、 ふあーゆツダコマ株式会社 代表取締役
取締役	山 田 茂 生	共和電機工業株式会社担当、共和電機工業株式会社 代表取締役
取締役	北 野 浩 司	製造部門統括、品質保証部門担当、品質保証部長
取締役	坂 井 一 仁	コンポジット機械部門統括、準備機械技術部門担当、準備機械技術部長、株式会社T-Tech Japan 代表取締役
取締役	大 森 充 志	工作機械関連事業統括、工機技術部長、航空機部品推進室長、ツダコマテクノサポート株式会社 代表取締役
取締役	寺 田 武 治	繊維機械事業統括、繊維機械販売部長、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED 代表取締役
取締役	越 馬 進 資	
常勤監査役	潮 橋 本 博	
常勤監査役	長 谷 博	（澁谷工業株式会社 取締役副会長）
監査役	澁 谷 政 隆	（カジナイロン株式会社 代表取締役社長）
執行役員	浅 井 俊 和	製造第1部長
執行役員	室 井 哲 也	生産技術部長
執行役員	山 田 和 史	繊維機械技術部長
執行役員	宮 田 博 幸	調達部門担当、調達部長
執行役員	林 隆 峰	津田駒機械製造（常熟）有限公司 総経理

*取締役 越馬進治氏及び潮田資勝氏は社外取締役です。

*監査役 澁谷進氏及び梶政隆氏は社外監査役です。

株式の概況（令和2年5月31日現在）

株式の状況

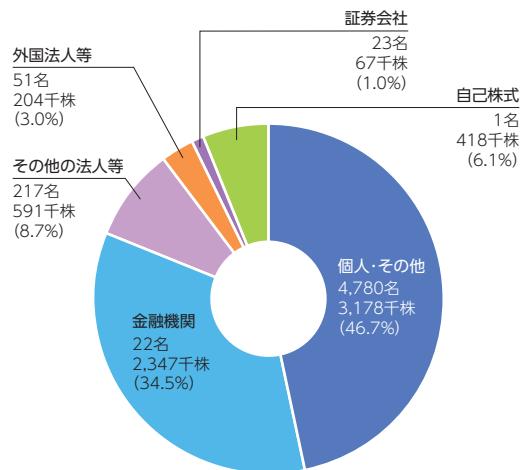
①発行可能株式総数	19,900,300株
②発行済株式の総数 （内自己株式の数）	6,807,555株 (418,479株)
③単元株式数	100株
④株主数	5,094名

大株主の状況

株主名	持株数(千株)
津田駒取引先持株会	1,005
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	680
明治安田生命保険相互会社	350
株式会社北陸銀行	258
株式会社北國銀行	232
ツダコマ従業員持株会	182
三井住友海上火災保険株式会社	178
東京海上日動火災保険株式会社	177
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	157
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	81

（注）当社の保有する自己株式418千株は上記表には含んでおりません。

株式の分布状況





株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（第1部）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	TEL 0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国 各支店で行っております。

ホームページのご案内

<https://www.tsudakoma.co.jp/>